

2022年度 環境経営レポート

対象期間:2022年4月1日~2023年3月31日
作成日:2023年9月29日

目次

- 1 組織概要と対象範囲
- 2 ご挨拶
- 3 これまでの取組
- 4 環境経営方針
- 5 実施体制
- 6 環境経営目標と実績・評価
- 7 環境経営計画の取組・評価
- 8 その他活動
- 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
- 10 代表者による全体評価と見直しの結果
- 11 次年度の環境経営目標と環境経営計画

組織概要と対象範囲

事業所名

株式会社 出雲東郷電機

代表者名

代表取締役社長 前田 和雄

所在地

島根県出雲市西林木町626-1

環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者：山崎 晃一
担 当 者：大村 美恵子
TEL 0853-23-1811
FAX 0853-24-8121

事業規模(2023年3月31日現在)

製品出荷額：11億6400万円
社 員 数：155名

事業活動の内容

産業用制御機器（検出スイッチ、
操作スイッチ、センサ）の製造

事業年度

4月～翌年3月

認証・登録の対象範囲

当社で行う全活動、全組織



地球温暖化、廃棄物の増加、資源エネルギーの枯渇など、環境問題は深刻化しています。

環境保全と企業活動の両立は、企業の果たすべき重要な役割であり、当社は、創業の2014年にエコアクション21を取得するとともに、2014年以降、環境負荷軽減の取り組みを進めています。

これまで、本業での作業効率改善による省エネ、品質改善による廃棄物量の削減、全社員への意識醸成を図りながらの電灯・空調の省エネや廃棄物の3Rの取り組み、省エネ仕様の電灯・空調等の機器への更新などを進めてきました。

また、2020年4月からは、NTTアノードエナジー様のオンサイト型電力供給が稼働し、当社へのグリーン電力の供給が開始されました。これにより、当社のグリーン電力化率は38%となるとともに、二酸化炭素排出量は、前述の取り組み成果も合わせて、2022年度は、2014年度比で、49%削減する事が出来ました。

当社は、持続可能な社会の構築に向け、環境保全と企業活動の両立への更なる挑戦を続けていきます。

株式会社 出雲東郷電機

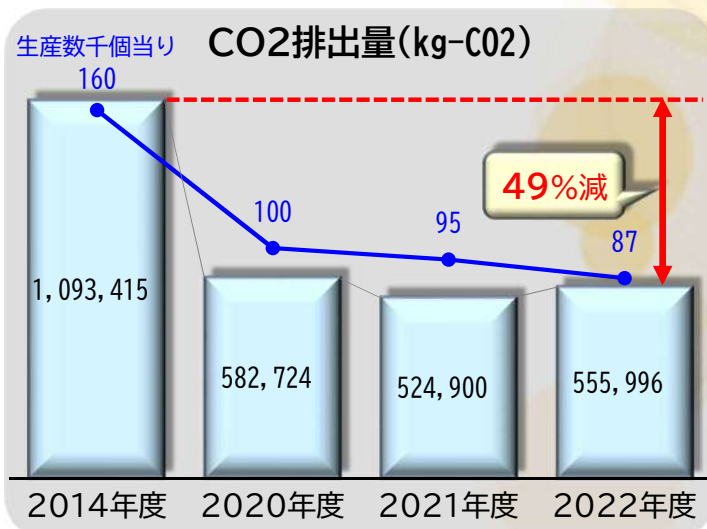
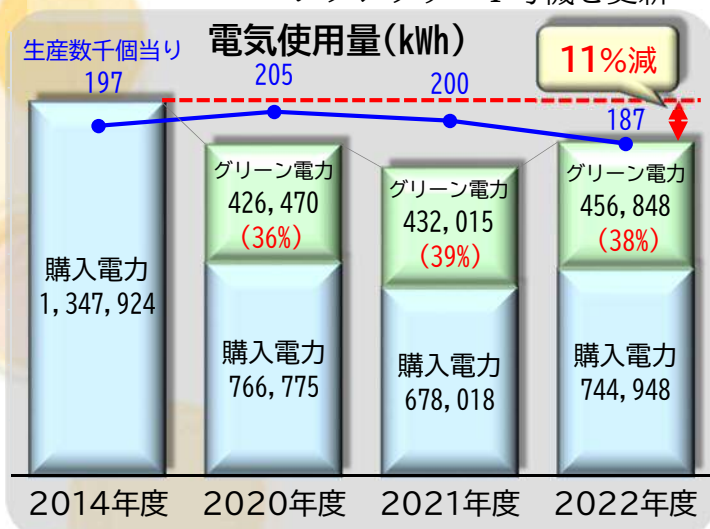
代表取締役社長 前田 和雄

これまでの取組

2014年度(創業)～2022年度の取り組み・成果

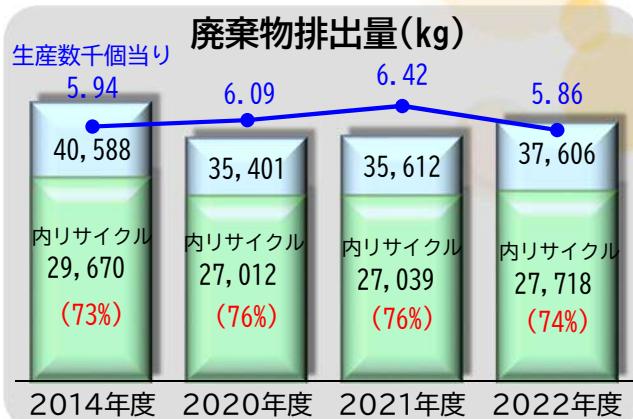
<二酸化炭素排出量の削減>

- 2014年度～継続：照明の間引き、未使用時の照明の電源OFF、空調機の省エネ運転徹底
- 2016年度：外灯の点灯時間短縮
- 2017年度：コンプレッサー4号機の更新と自動運転プログラム変更
- 2018年度：物流棟1階の空調機を省エネタイプへ更新、水銀灯を全てLED化
- 2019年度：食堂棟・3号館連絡通路の空調機を省エネタイプへ更新
- 2020年度：太陽光発電電力の利用開始、2号館事務所・会議室照明のLED化、1号館・2号館会議室の空調機を省エネタイプへ更新
- 2021年度：3号館・2号館ロビー照明のLED化、3号館・物流棟2階北側の空調機を省エネタイプへ更新
- 2022年度：2号館生産エリア・事務所の空調機を省エネタイプへ更新、1号館生産エリア・2号館2階生産エリア照明のLED化、コンプレッサー1号機を更新



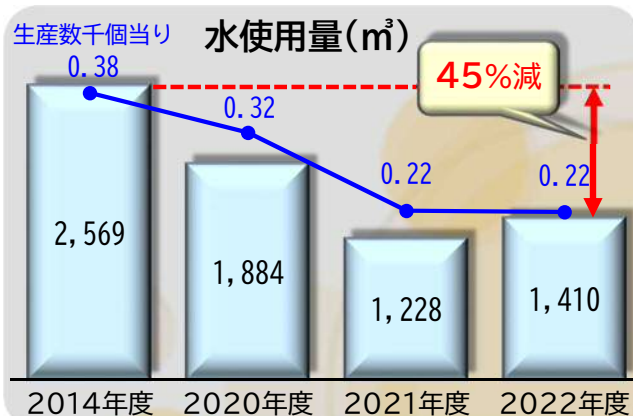
<廃棄物排出量の削減>

- 2014年度～継続：
 - 分別の徹底、再資源化の推進、
 - 設備改善・品質改善による廃棄量削減
- 2019年度～継続：
 - 段ボール納入からオリコン納入へ変更の取り組み



<水使用量の削減>

- 2014年度～継続：節水の徹底
- 2018年度：食堂トイレを節水タイプへ更新
- 2020年度：1号館・3号館のトイレを節水タイプへ更新
- 2021年度：2号館トイレを節水タイプへ更新



基本理念

当社は、環境問題の保全が企業活動における重要課題と認識し、当社が環境に与える影響を社員一人一人が自主的に、継続的に低減するための環境活動に取り組み、自然環境との調和と地域社会との共生を目指します。

方針

1. 環境保全活動として、次の事を重点課題として取組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量削減のため、電力・化石燃料等のエネルギーの有効利用と、太陽光などの自然エネルギーの効果的利用を進めます。
 - (2) 循環型社会形成のため、廃棄物の削減とリサイクルの推進に取り組みます。
 - (3) 限りある資源の有効活用のため、生産効率向上と不良率削減に取り組みます。
2. 環境経営目標を設定し、定期的にその効果を評価し、必要に応じて見直しを行うと共に継続的改善に取り組みます。
3. 環境関連の法規制を遵守します。
4. 地域社会との調和を目指して社会貢献活動の推進を行います。
5. 環境への取組みを環境経営レポートにまとめ公表いたします。

制定日 2014年 4月 1日

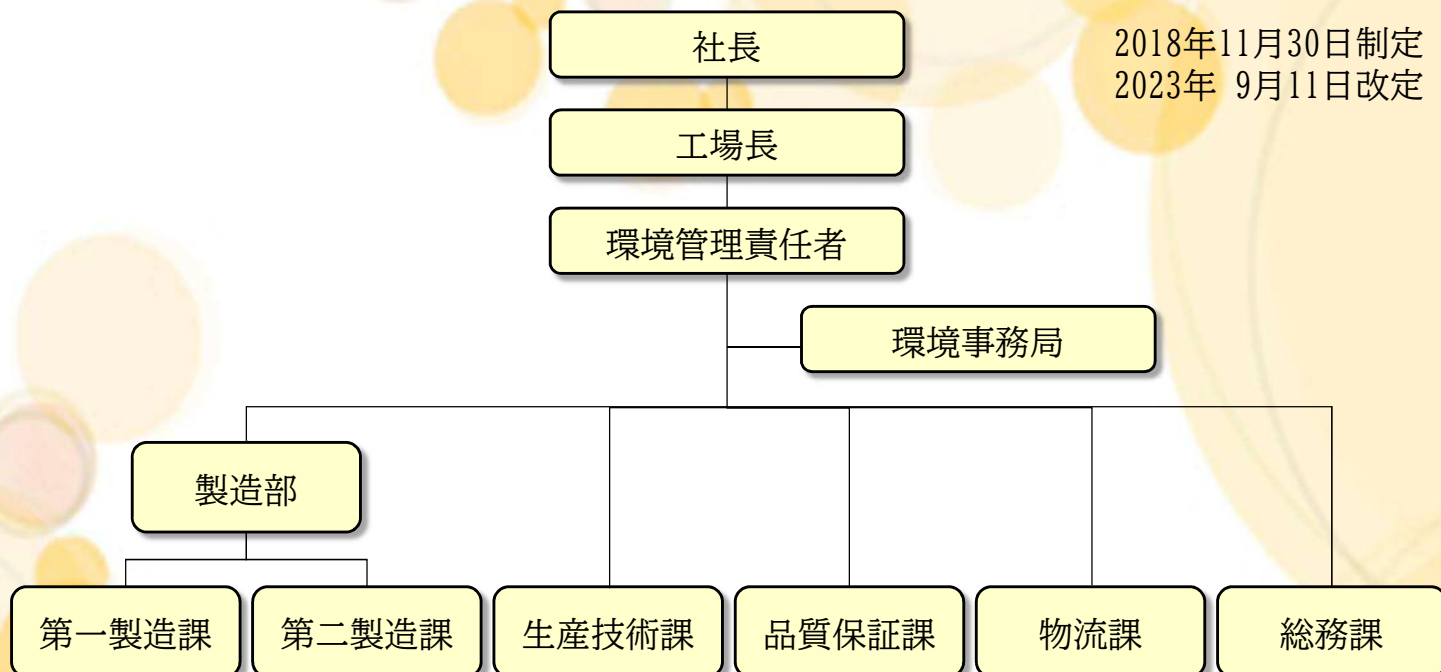
改定日 2021年 4月 1日

株式会社 出雲東郷電機

代表取締役社長 前田 和雄

実施体制

2018年11月30日制定
2023年 9月11日改定



役 割	
<p>社長</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境経営に関する統括 ◆環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 ◆環境経営実施体制の構築 ◆環境管理責任者の任命 ◆経営における課題とチャンスの明確化 ◆環境経営方針の策定・見直し ◆環境経営システムの評価と見直し <p>工場長</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆社長不在時の代行 <p>環境管理責任者</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境経営システムの構築と運用管理 ◆環境推進委員会の委員長 ◆環境活動の取組結果の社長への報告 	<p>環境事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境管理責任者の補佐 ◆環境経営システムに関する事務 ◆環境監視数値の集計 ◆環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ◆内部環境監査の実施準備 <p>各課部門長</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自部門における環境経営システムの実施 ◆自部門に関連する環境経営計画の実施・達成状況の確認 ◆自部門に関連する問題点の発見、是正、予防処置 <p>各課環境推進委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自部門の環境経営計画を課内で推進 ◆自部門の環境経営実績を記録し部門長へ報告 ◆内部環境監査の実施（内部監査員） <p>各課課員（全社員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境経営方針を理解し、環境活動の重要性を自覚 ◆自主的かつ積極的な環境活動への参加
<p>【補足】 ※ 環境関連文書類の責任・権限については、環境関連文書管理規程に従う</p>	

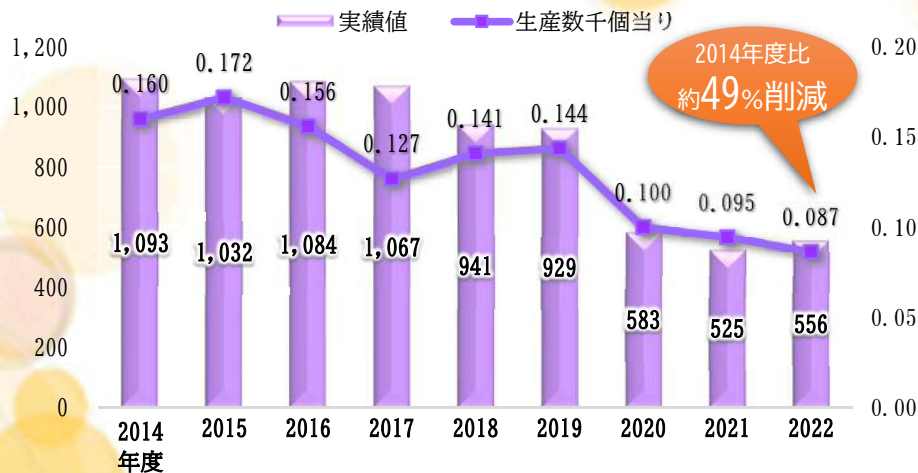
環境経営目標と実績・評価

項目名	2021年度	2022年度			2023年度 目標	2024年度 目標	評価
	実績数値	目標	実績	目標と 実績の差			
1. 二酸化炭素 排出量の削減 (※1)(※2)	524.9 t-CO ₂	519.9 t-CO ₂	556.0 t-CO ₂	36.1 t-CO ₂	555.7 t-CO ₂	548.6 t-CO ₂	太陽光発電電力でのカバー率は昨年同等の38%となりました。下期からの増産とガス空調から電気空調への更新(室内機14台)の影響で、電気使用量が昨年度比8%増加しましたが、代わりにLPガスの使用量が昨年度比12%減っています。生産量が昨年度比で約20%増加しているのに対し、二酸化炭素排出量は昨年度比で6%程度の増加に抑える事が出来ており、機器更新や節電対策の成果が出ています。
1-① 電気使用量の削減	111.0 万kWh	109.7 万kWh	120.2 万kWh	10.5 万kWh	121.7 万kWh	119.9 万kWh	
1-② 化石燃料使用量の削減 (液化石油ガス[LPG])	14,935.4 m ³	14,935.4 m ³	13,100.7 m ³	▲1,834.7 m ³ 削減率 12%	12,100.7 m ³	12,100.7 m ³	
2. 廃棄物排出量の削減	35,612.4 kg	35,612.4 kg	37,605.8 kg	1,993.4 kg	26,094.3 kg	26,094.3 kg	下期からの増産に伴い、生産量に直結する廃プラスチックや廃金属の排出量が増加しましたが、3Rの取り組みにより同等の生産量だった2019年度比では約2%改善する事が出来ました。
2-① 一般廃棄物排出量削減	23,075.0 kg	23,075.0 kg	23,448.3 kg	373.3 kg	18,548.3 kg	18,548.3 kg	
2-② 産業廃棄物排出量削減	12,537.4 kg	12,537.4 kg	14,157.5 kg	1,620.1 kg	7,546.0 kg	7,546.0 kg	
3. 水使用量の削減 【水道水と井水の 使用量削減】	1,228.0 m ³	1,228.0 m ³	1,410.0 m ³	182.0 m ³	1,410.0 m ³	1,410.0 m ³	下期からの増産対応で従業員が増加しており、水使用量が増加しましたが、同等の従業員数だった2017年度と比較すると約50%減っており、機器更新や節水対策の効果が出ています。
4. 化学物質使用量の把握 【PRTTR制度に該当する第一種指定化学物質の使用量を把握】	16.1 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う	12.8 kg	-	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う		化学物質管理規定に沿って適正な管理が出来ました。使用量の大幅な変化はありませんでした。
5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 【廃製品・廃部品の排出量削減】	72.5 Kg/月	94.5 Kg/月 ※2022年度生産計画を加味した値	68.5 Kg/月	▲26.0 Kg/月 削減率 28%	製造部門にて年度毎に改善対象を決めて取り組む		プレス打抜きカス廃棄により12月に突発的に廃棄量が増加していますが、そのほかの月は順調に減っており、通期では目標に対し大幅に削減出来ました。

(※1) 二酸化炭素排出量にはガソリン使用量を含むが、二酸化炭素排出量の0.2%と少量の為、環境経営目標は未設定
 (※2) 購入電力の二酸化炭素排出係数については、2018年度中国電力調整後排出係数「0.636 kg-CO₂/kWh」を使用

No.1 二酸化炭素排出量の削減

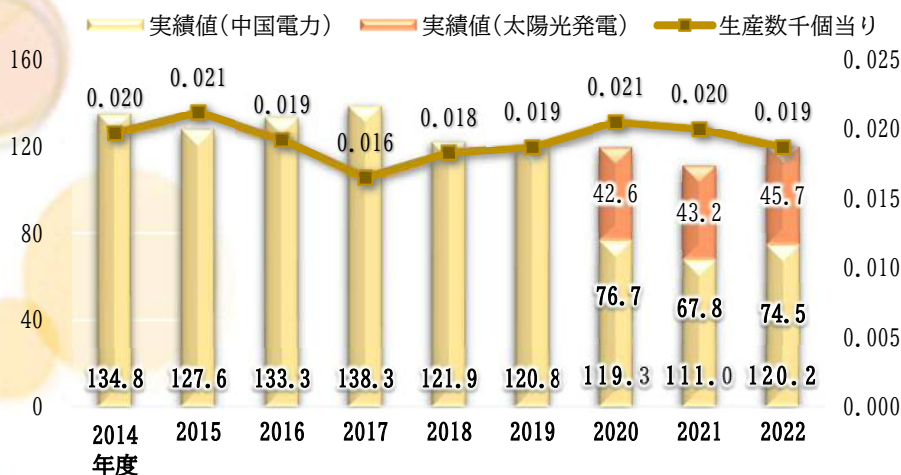
二酸化炭素排出量推移 [単位：t-CO₂]



2020年度からの太陽光発電電力の利用や、空調機の省エネタイプへの更新、照明のLED化により、実績は2014年度比で約49%の削減となりました。
生産量が前年度比で約20%増加しましたが、機器更新の実施や継続的な節電対策の成果が出ており、二酸化炭素排出量は前年度比で6%程度の増加に抑えられ、生産数千個当りの二酸化炭素排出量は約8%削減と改善する事が出来ました。

No.1-① 電気使用量の削減

電気使用量推移 [単位：万kWh]



環境経営計画

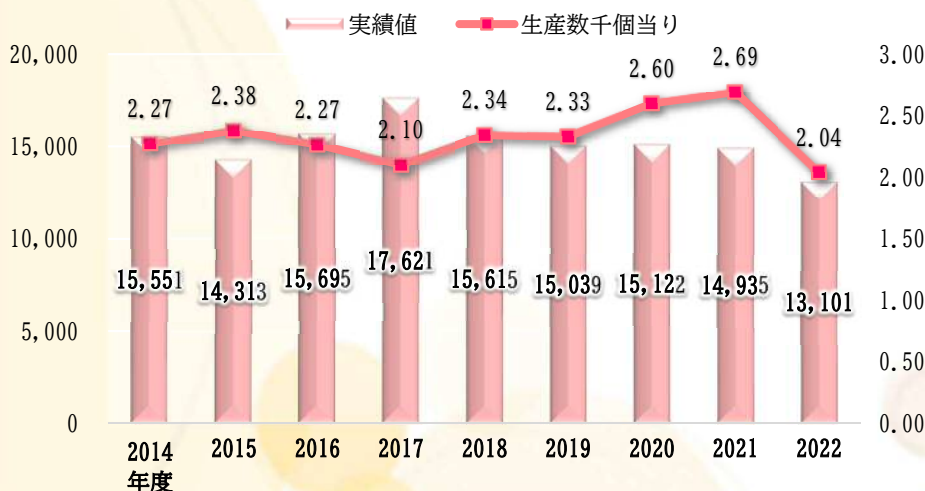
- ◆ 2号館空調機更新(室内機23台)
- ◆ 動力棟・1号館の照明をLED化
- ◆ コンプレッサの稼働時間削減とエアリーク点検の実施
- ◆ 不要な電気のこまめな消灯
- ◆ 空調の適正温度管理

取組内容・評価

- ◆ 計画を見直し2号館空調機(室内機38台)を更新しました。
- ◆ 計画を見直し、1号館生産エリアと2号館2階生産エリアの照明をLED化しました。(352台)
- ◆ コンプレッサ1号機をインバーター機に更新しました。
- ◆ コンプレッサのエアリーク点検をし、発見箇所の修繕を行いました。
- ◆ 不要な電気のこまめな消灯、空調の適正温度管理等、継続的活動も引き続き実施しました。
- ◆ 生産数が前年比で約20%増加、2号館1階事務所・ロビーのガス空調から電気空調への更新(室内機14台)により、電気使用量は8%増加しましたが、上記取り組みにより、生産数千個当りの電気使用量は約5%改善する事が出来ました。

No.1-② 化石燃料使用量の削減 (LPガス)

LPガス使用量推移 [単位：m³]



環境経営計画

- ◆ 2号館1階事務所のガス空調を電気空調に更新
- ◆ 空調の適正温度管理

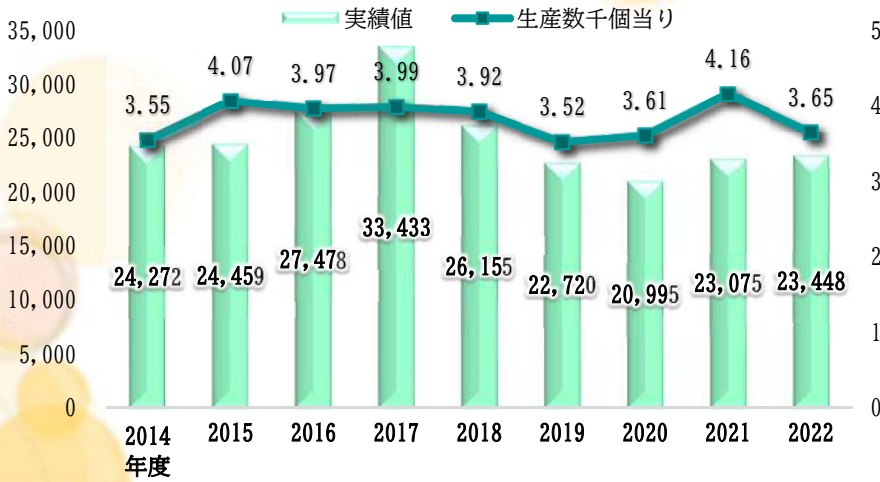
取組内容・評価

- ◆ 引き続き空調の適正温度管理を行いました。
- ◆ 2号館1階事務所・ロビーのガス空調を電気空調に更新(室内機14台)する事で、ガスの使用量を前年度比で12%削減出来ました。また、これにより二酸化炭素排出量削減の効果が得られました。

環境経営計画の取組・評価

No.2-① 一般廃棄物排出量削減

一般廃棄物排出量推移 [単位：kg]



環境経営計画

- ◆ 廃棄物の分別徹底
- ◆ 段ボール納入品のオリコン化

取組内容・評価

- ◆ 引き続き、廃棄物の分別徹底を行いました。
- ◆ 段ボール納入品のオリコン化は、納入元様との協議を続けていますが、改善には至りませんでした。
- ◆ 下期からの増産に伴い、一般可燃ゴミの排出量が増えましたが、生産数千個当りの排出量は前年比で12%改善する事が出来ました。

No.2-② 産業廃棄物排出量削減

産業廃棄物排出量推移 [単位：kg]



環境経営計画

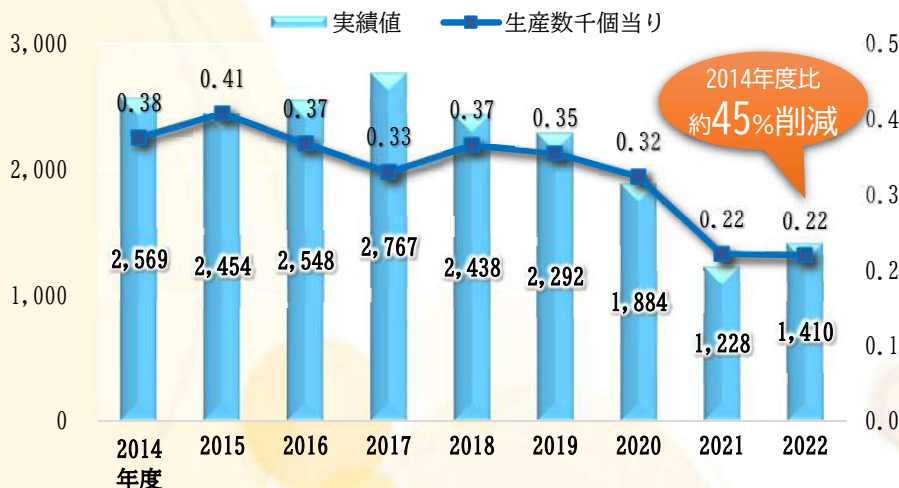
- ◆ 基本スイッチ、セーフティスイッチ廃棄削減
- ◆ 廃棄物の分別徹底

取組内容・評価

- ◆ 引き続き、廃棄物の分別徹底を行いました。
- ◆ 品質改善による廃棄物量の削減、設備改善・品質改善により廃棄量を約310kg削減しました。
- ◆ 下期からの増産に伴い、生産量に直結する廃プラスチックや廃金属の排出量が増えましたが、生産数千個当りの排出量は前年比で約2%削減しました。

No.3 水使用量の削減

水使用量推移 [単位：m³]



環境経営計画

- ◆ 節水の徹底

取組内容・評価

- ◆ 引き続き、節水の徹底を行いました。
- ◆ 下期からの増産に伴い、従業員が増えた為、水使用量が増えましたが、生産数千個当りの水使用量は前年同様に抑える事が出来ました。

空調機更新

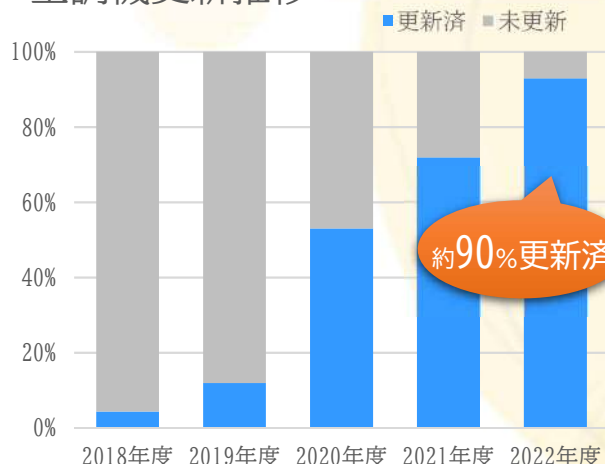
省エネ

空調機の老朽化に伴い、計画的に空調機の更新を進めています。

2022年度は2号館空調機の室内機で38台（全体の20%）を省エネタイプへ更新しました。

この5年で当社の空調機を設置しているエリアの約90%の更新が完了しました。今後も順次更新を進めていきます。

空調機更新推移



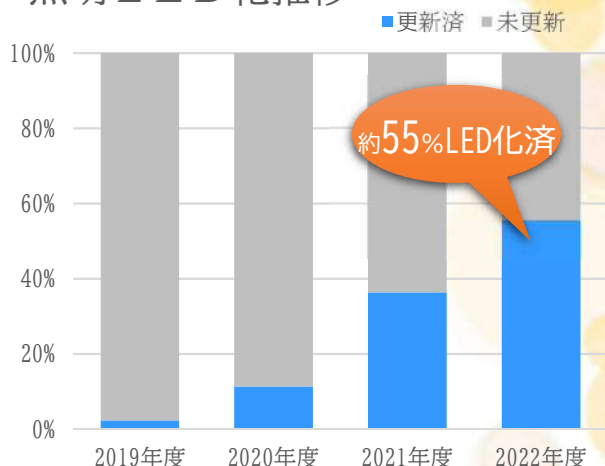
照明のLED化

節電

2014年度(創業時)時点で、約1,800台あった蛍光灯照明のLED化を、2020年度以降、エリア毎に進めています。

2022年度は、1号館生産エリアと2号館2階生産エリア352台のLED化を実施し、全体の約55%がLED化出来ました。今後も順次更新を進めていきます。

照明LED化推移



空調の設定温度基準の見直し

節電

空調の設定温度基準を見直し、全エリアのリモコンに基準を貼って、空調の適正管理を意識付けしました。

また、環境推進委員会で勉強会を実施し、環境推進委員から各課社員へ意識付けを実施しました。

エアコン設定温度(目安)	
冷房	暖房
24℃	20℃
↓	↓
28℃	23℃
環境省推奨28℃ (事務所かつクールビズ)	環境省推奨20℃ (事務所かつウォームビズ)



適用される法規制	適用される事項【施設・物質・事業活動】	遵守状況
下水道法 【法第11条の2】	・使用開始等の届出	○
浄化槽法 【法第10条】	・浄化槽の保守点検、清掃、排出水水質検査	○
浄化槽法 【法第11条の3】	・浄化槽廃止の届出	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法 【法第16条】	・全ての機器は四半期に1回以上簡易点検を実施する ・7.5kW以上50kW未満のエアコンは3年に1回以上業者にて定期点検	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 【法第12条, 法12条の2】	・保管基準の遵守、委託基準の遵守、電子マニフェストの交付	○

違反等の遵守状況の評価

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

【2023年3月13日確認】

また、創業以来9年間にわたって保健所等関連機関からの違反の指摘及び、地域住民等の利害関係者からの訴訟はありませんでした。

代表者による全体評価と見直しの結果

生産活動が企業主体である当社においては、作業効率改善や不良率削減が、省エネや廃棄物量削減等の環境保全活動に繋がります。引き続き改善活動等を通じて、生産性向上及び不良率改善を進め、環境負荷削減に取り組んでいく事が重要です。

引き続き、省エネ設備への更新（空調更新・照明LED化など）を進めていきますが、日々の社員一人ひとりの取り組みが大切です。各部門長や環境推進委員が推進・牽引役を担い、コンプレッサーのエアリーク点検や不要な照明・空調を切るなど、設備更新以外の取り組み強化に繋げていく事が必要です。

生産の増減産があると環境負荷の評価が適切に出来ない為、原単位（生産数当り）での実績把握・評価を強化し、環境負荷低減の取り組みを進めていきます。



次年度の環境経営目標と環境経営計画

項目名	2022年度	2023年度		2023年度 環境経営計画
	実績数値	増減率	目標数値	
1. 二酸化炭素排出量の削減	556.0 t-CO2	▲0.1 %	555.7 t-CO2	【今期取組】 ・ 2号館1階生産エリア、1号館西側、食堂ホールの照明をLED化 ・ 物流棟2階南側、工作室の空調機を省エネタイプへ更新 【継続的活動】 ・ 未使用時の照明・ディスプレイの電源OFFなど、節電対応の継続 ・ 空調機の省エネ運転の継続
1-① 電気使用量の削減	120.2 万kWh	1.2 %	121.7 万kWh	
1-② 化石燃料使用量の削減 (液化石油ガス[LPG])	13,100.7 m ³	▲7.6 %	12,100.7 m ³	
2. 廃棄物排出量の削減	26,094.3 kg ----- 調整前実績値 37,605.8 kg	前年度 実績維持	26,094.3 kg	【継続的活動】 ・ 廃棄物分別徹底の継続
2-① 一般廃棄物排出量削減	18,548.3 kg ----- 調整前実績値 23,448.3 kg	前年度 実績維持	18,548.3 kg	
2-② 産業廃棄物排出量削減	7,546.0 kg ----- 調整前実績値 14,157.5 kg	前年度 実績維持	7,546.0 kg	
3. 水使用量の削減 【水道水と井水の使用量削減】	1,410.0 m ³	前年度 実績維持	1,410.0 m ³	【継続的活動】 ・ 手洗い等での節水対応の継続
4. 化学物質使用量の把握 【PRTTR制度に該当する第一種指定化学物質の使用量を把握】	12.8 kg	別に定める化学物質管理規定によって適正管理を行う		
5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善 【廃製品・廃部品の排出量削減】	72.5 Kg /月 ※2022年度改善対象の値 ----- 4.46 Kg /月 ※2023年度改善対象の値	-	-	【今期取組】 ・ 押しボタンスイッチ生産時の廃棄量削減
その他取り組み	朝礼等での社員への意識づけ、掲示板での情報発信、エコキャップ運動の継続、古切手回収、会社近隣のゴミ拾い等			

- 購入電力の二酸化炭素排出係数については、2018年度中国電力調整後排出係数「0.636kg-CO2/kWh」を使用
- 廃棄物量の2022年度実績値は以下を考慮して補正した値を使用
 - ・ 軟性プラスチック類の分別が間違っている事が判明し、2022年度まで一般可燃ゴミに計上していた4,900kg/年を産業廃棄物へ計上
 - ・ 2023年度から廃製品・廃部品を部品支給元へ返却する運用に変更になる為、変更分類の排出量11,511.5kg/年を産業廃棄物の実績より差し引く



IZUMO TOGO
ELECTRONICS Corporation